



「在宅中心静脈栄養移行」の患者に薬剤師の視点でできること

在宅中心静脈栄養法(home parenteral nutrition:HPN)は中心静脈栄養(TPN)を在宅で行う栄養法です。病院と異なり限られたマンパワーで実施する必要があり、円滑な移行のためには入院中から計画的に関わることが必要です。その中で、薬剤師の視点でできることの一部を紹介します。

薬剤部 長谷川 裕矢

○入院中のTPN処方のままHPNに移行でしょうか？

入院中はピーエヌツインにビタミン剤、微量元素製剤を混合して投与する場合があります。しかし混合の操作は在宅において患者本人や家族が行う場合は煩雑ですし、衛生管理も必要になります。



→ ビタミン剤、微量元素製剤もひとつのバッグにまとまっているTPNキット製剤を用いることでTPNの混合を簡便に行うことができます。ぜひ薬剤師にご相談下さい！

○在宅でも24時間持続で点滴をしないといけないのでしょうか？

24時間持続での点滴は、生活の場である在宅においては、生活が束縛されQOLが低下することも考えられます。

→ 10日ほどかけて点滴時間を24時間から8～14時間ほどに短縮出来る場合があります。そうすることで一定時間、点滴から開放される時間を作ることができます。しかし、患者さん本人の耐糖能や心肺機能により全症例に実施できるとは限りませんので主治医との相談が必要です。

その他、**脂肪乳剤の投与方法、医療材料の提供方法、訪問看護師の介入の有無**などを移行にあたって確認することがあり多職種での支援が必要です。患者が混合する場合には入院中から練習する必要もありますし、**カテーテル感染が疑われる場合の対応**など患者家族への教育も重要です。

メーカーから指導用冊子も提供されています！！



お知らせ 第6回 院内NST研修会 脳外科疾患 澤田(元)先生

11月14日(水)17:30～18:30 MGHホール



どの職種でも参加可能です。栄養に興味のある方や、新人職員の皆様ぜひご参加下さい！

お知らせ

入院時、入院中の栄養評価に必要な項目が測定できるよう、臨床検査のセットを作成しました。

血液検査→診療科セット→NST介入セット

で、通常の検査オーダーと同じように依頼が出来ます。

項目：Alb、T-CHO、TG、WBC、リンパ球、ChE、Na、Cl、Ca、IP、Mg

入院中の、経時的な栄養評価に必要な項目を追加検査が出来ます。

※医師オーダー画面
血液検査→*4 診療科セット→NSTの介入セット

確定

★NST回診前後数日間に施行される主治医からの採血オーダーに、栄養評価に必要な項目を「内科 山本」「内科 細川」より追加オーダーすることがあります。

★患者さんによっては、長期間血液検査がされていない場合（長期療養、血管確保が難しい等）があります。その際に栄養評価の為、新たに採血オーダーすることもあります。

よろしくお願ひします。

不明な点は内科 山本奈央子(PHS6583)までご連絡下さい

